

地域広聴会における意見

【地域広聴会の実施状況】

区 分	場 所	日 時	出席者	会場発言	アンケート
松江会場	島根県民会館	1月13日(日) 10:00～11:30	約130人	16人	66件
飯南会場	中山間地域研究センター	1月15日(火) 18:00～19:30	約60人	7人	30件
浜田会場	いわみーる	1月17日(木) 18:00～19:30	約140人	13人	48件
隠岐会場	隠岐合同庁舎	1月20日(日) 13:00～14:30	約60人	6人	18件

松江会場での発言

【農業、農村の活性化】

輸入農畜産物の増大、農畜産物の価格低迷、従事者の高齢化、後継者不足などにより、地域の農業維持が困難な状況も見受けられる。

昨年、品目横断経営安定対策がスタートしたが、中山間地の多い島根県では、面積などの条件によりこの対策への加入が思うほど進んでいない。小規模の農家あるいは兼業農家が大多数であり、対策の対象外となっているが、これが農村集落を支えているという現状である。中山間地の直接所得保障制度、昨年できた農地・水・環境保全向上対策と国の対策はあるが、島根県の地域実態に即した独自の支援策の充実が必要と思う。

農村の崩壊というのが、イコール集落崩壊ということにつながりかねない。島根、広島などのNPO法人が限界集落などの高齢化の進む中山間地で集落機能を維持するための民間主導での生活支援サービスを提供する実験事業が始められるということであるが、島根の場合は県も協働で進められるということであり、結構なことだと思う。

【地産地消】

地産地消は農村の活性化に役立っていると思う。食の安全・安心へのニーズが非常に高まっている中で、新鮮な野菜コーナー、産直店舗が好評である。少量多品目という生産体制であるが、これは逆に高齢の方、あるいは団塊世代でもう仕事を終わられた方、本格的な就農ということにはならなくても、家庭菜園的なことから取り組める。物が売れば収入にもなり、働きがい、食農教育、つくる楽しみ、生きがい対策、さらに健康づくりにも役立つ。ひいては定住対策にもなると思っている。地域で生産された安全・安心な農産物を地域で消費する地産地消という取り組みを強化していきたい。これは総合的な発展にも寄与できるのではないかと考えている。

【島根の農産物、特産品】

今回の実施計画の中にも県産品の販路の開拓あるいは拡大の支援ということがあるが、

より一層の御支援をいただきたい。

ボタンの苗木の輸出を行っているが、このボタンを核にして、ほかの農産物を島根県産のブランド品として育てることが重要である。付加価値をつけること、販路、栽培技術、PRについて、県の支援が欠かせない。このボタンを中心に攻めの、元気のある収益性のある農業を目指したい。

【健康づくりと福祉の充実】

人は生まれたときから健康で健やかな人生を送りたいというのが大きな目標ではなかろうかと思うが、自分の意思とは別に、周囲の環境あるいは習慣等により健康を害していくということがある。今後そういうようなことにより健康を害することがないような、そういう県民づくりをやっていただきたい。

【自殺対策】

島根県は自殺率が全国でも高い。これは社会情勢にも大きな問題があるかとは思いますが、病気、いじめ、失業、倒産、多重債務等により、自殺者が今後もふえてくるんじゃないかと思っている。そうした中で、やはり県の総合発展計画の中でそういう自殺者が一人でも少なくなるような対策を図っていただきたい。

【障害者】

障害者が心身ともに自立していくためには、一番大切なのが一般社会へ就職をして、まず人並みな社会生活が送れるような体制をつくっていくことと考えている。

障害者のことをまず施策としてとっていただくならば、まず就職問題。そのためには、社会が障害者をどれだけ理解しているかが一番大きな問題であると思う。障害を持った者と持たない方々が、ともに手を携えながらお互いに支え合って、楽しく人生を送ることができるような、そういう政策をぜひ構築していただいて、明るい楽しい島根を構築していただきたい。

【NPO】

島根県の総合発展計画の中に、NPOとの協働、活動の推進というような言葉は出てきているが、15の政策を展開していく中での61の施策の中に、位置づけが弱いのではないかなという印象を受けている。

今後NPOの活動というのは、さまざまな分野、そしてさまざまな協働のもとで発展していく可能性が非常に大きいと思っており、政策、施策の中でもNPO活動の位置づけをもう少し強く持っていただきたい。

【県内就職】

高卒の就職の数がすごく少なくて、その中から自分の就職する場所を探していくのがとても大変で、周りの人たちもまだ就職が決まってない人がたくさんいる。

島根県は高齢化がすごく進んでいるので、若い人たちの力がとても必要になってくると思うが、島根県は大学や学校が少ないので、県外から若い人に来てもらうというのにはちょっと難しいところがある。高校を卒業する段階で多くの若者に残ってもらえるような政

策をもっととってもらえればいいんじゃないかなと思う。

【心のあり方】

心の時代ということが言われているが、私は、ある役所へ情操基礎教育創生プロジェクトなるものを提案している。施策について、実際に事を進めてそれを深めれば深めるほど、人間性の根源に突き当たるような問題がたくさんある。まずいろんなことの方考え方を進めるための基本、言葉を変えれば、それに対応するような人間をまずつくることが基本ではないかと考えている。こういうものがいろんな施策を深める上には表面に出ない問題がたくさんある。

【基準に達しない人の救済・支援】

今の制度、政策の基準で拾えない部分で一生懸命やっている方を救済する政策、そういったものをこの4年あるいは10年の中に継続してされると、きっと島根は豊かに、住んでよかったな、やっぱりここにおいて皆が見守りながら私も頑張っていけるんだというような、そういった地域になるんじゃないかなと感じている。

今回の総合発展というのは、落ち込んだところをある程度引き上げていくことも政策的に考えていかないと、本当の意味の総合発展にならないんじゃないか。

【県内就職】

私は県内の企業に就職したが、その理由は、まず島根県が私はとても好きで、過ごしやすく、一生島根県で仕事や結婚もしようと思って島根県に就職した。島根県の企業の求人が余り多くなくて、考えるのも苦労した。もっといろんな職種の求人が来ていたら、もっと考えやすく、県内に就職したい方は就職を決めるのがしやすくなると思う。県内の企業も島根県に協力して、もっと企業が求人を出していった方がいいと思う。

【県内就職】

私も県内で就職が内定が決まっており、来期から県内で仕事をすることになる。私が県内で就職を希望したのは、島根県がとても住みやすく、地域とのコミュニケーションがとても密接で、そのコミュニケーションの輪から離れたくないというものがあった。私は第1志望の企業に内定が決まったが、友人が第2志望で、やはり第2希望になると数がとても少なく、とても苦労している面が見られるので、島根総合発展計画の中の企業誘致の推進とあるが、その点を特に重視して、県には頑張っていたきたい。

【県内就職】

私も県内就職が決まった。なぜ県内に就職したかということ、小さいころは都会というのにすごくあこがれていたが、都会は治安が悪いというイメージがあって、そこからずっと住みなれた島根県で就職したいと思うようになった。

私の友達でも県内就職の人は多いが、理由を聞いたら、家から近いからとか、そういうのが多く、その企業に行きたいという強い意思は少ないように思う。かといって、島根県にそう行きたいと思うような企業がないというわけでもなく、そこを調べていったら、ああ、いいなあと思うようになったという人が多いと思う。それを知らない人たちは、県外

の企業に魅力を感じて外に出ていってしまうと思うので、もっといいところがあるんだというのを私たちに教えてほしいと思った。

【観光】

観光施設について、島根県の中でもランクづけをして、島根県で行くならここがいいよという一つの第三者的な評価をして、そしてそれをマスコミ等でPRして、島根県ならここだよと言えるようなことができると、ただでマスコミがPRしてくれて、おまけに全国PRになると思う。

【協働】

住民として何ができるのかなという立場で総合発展計画を見させていただいたときに、少しわかりにくい部分がある。それは、例えば協働という部分が構想編に出ているが、これが何を示唆しているのかということ。というのは、この協働ということの根底には、必ず住民の自立ということがあって、同じ目的を持ってそこへ進むんだという意識の共有がなければ進めないということがあるはずだが、その辺の位置づけ、流れがもう少し表現できていればいいなと思う。

【観光】

今、石見銀山、古代出雲歴博、神話、松江400年祭と、島根の潜在的なエネルギーが対外的にアピールできる時期なので、雲南、大田を含めた島根の中央部分の観光振興ネットをつくっていくと、もっとお客が呼べる。新しい何か創造的な仕事も可能性が出てくるんじゃないか。地域性ということだが、それに固定せずに、もうちょっと柔軟に現状を考えて、枠組みを考えられたらどうかと思う。

【子どもの権利】

人権の尊重と相互理解の推進というところだが、ここには子供の権利というのは入っているのか。子供たちの権利をこの人権の尊重のところにきちっと言葉として入れていただきたい。

【教育】

教育の充実のところの、文書的には1番のところに入るのかとは思いますが、国内で5本の指に入る不登校の数、率とか、若年の自殺もかなり多いと理解しているが、その原因とか予防とか、そういったこともぜひ盛り込んでいただきたい。

【広域エリア】

東部エリアは松江市とか出雲市とか、そういった地方があるから今後の発展も望めると思うが、西部エリアは、核となるのは浜田とか益田だと思うが、東部エリアに比べて発展できるのかなという疑問がある。県は東部エリアに集中して、西部エリアの切り捨てという面もあるんじゃないかなという印象を受けた。

山陰自動車道とかが完成するという計画はあるが、それを待たずに江津市とかでアメックスのような企業を支援していただいて、地方の企業維持に力を注いでもらえればと思う。

【圏域ごとの発展方向】

計画の中に雲南の方でもヤマタノオロチとか、具体的な話が出てきているが、神話ガイドさんの養成の段階で、ヤマタノオロチも今後、観光の魅力として育てていきたいと考えている。

予算的な配分の部分で、国譲り神話や国引き神話については出雲部だけれども、ヤマタノオロチについては雲南だというような、予算的な部分で線引きがないように、柔軟に対応していただきたい。これは恐らく観光だけではなくて、各分野につながってくる部分だと思うので、そのあたりをよろしくお願いしたい。

【道路特定財源】

道路特定財源の暫定税率が廃止されると、私たちが求めている山陰自動車道が、10年で建設されるものが30年かかる。

25円安くなったら高速道路、私たちの求める命の道が30年たってもできない。それは断じて許すことはできない。皆さんの署名を持って、暫定税率の廃止を言っている民主党などへお願いしに行こうと思っている。島根の発展のために、やっぱり高速道路はなくてはならないと感じている。

【子育て】

保育園とか幼稚園というのは、教育的な視点が非常に大きいと思う。それはそれで大事なことだと思うが、やっぱり産業的な視点での子育て支援というか、そういった視点が必要ではないか。

島根にいたら安心して働けるんだと、安心して子供を育てられるんだと、そういうふうなことを政策のバックボーンにぜひ上げていただくといいと思う。

飯南会場での発言

【道州制】

道州制を視野に置きながら、産業構造や道路等のインフラ整備について検討されていくべきではないか。

【行政改革】

現在、行政改革が進んでいる中で、行政が従来担っていた業務が民間の方にかなり流れてきているという実態がある。そうした中で、人を減らすということはやむを得ない選択であろうと思うが、一方で事務的なものの簡素化等が非常におくれている。むしろ逆にそうしたものを進めた上で人員の削減に取り組んでいかななくてはならない。順番が逆ではないかと強く感じているところであり、そうした点を含めて従来の行政手法にとらわれず、ダイナミックな改革をぜひお願いしたい。

【農業】

中山間地域の農業をいかに守っていくかということも非常に重要な課題であると思っている。今、奥出雲ブランドという形で取り組みをしているが、対外的なアピール、残念ながら島根県の全国的な知名度は非常に低い。アピールする面も含めてブランド化の取り組

み等を含めて、この中山間地域を伸ばしていくためには農業を外しては考えられないと思うので、地域政策と農業政策のマッチングをした形での政策実現を望みたい。そうした意味では、総体的に部局を超えた形での政策立案ということも含めて御検討いただきたい。

【計画の位置付け】

平成16年にできた総合計画が連動しながらこのたびに生きているのか、全く新しいものなのか。どう生きておるかということが一つ聞きたい。

【人材育成】

計画を具現化して結果を出さなければならないが、その場はどこなのかということ。計画を推進していく一番最先端は役場の職員だと思う。役場の職員がこのことに対応できる人材育成をきちっとやらないと、なかなか難しいと思う。もっと真剣に行政のためになる、仕事のための仕事ではなく、住んでいる町民のためになる仕事という意識改革をしていただかないと、これは具現化できないと思う。きちっとした最先端の行政マンの育成、人材育成をよろしく願いたい。

【現場・地域】

大枠の中で言われることはわかるが、もっと現場に出て、現場を体験されれば、そこにヒントがあって解決策があると思う。県全体も大事だが、地域一つ一つを大事にしてもらいたい。大きな大枠の流れの中には小さな地域の動きがある。それを御理解いただきたい、それを認めていただきたい。

【情報インフラ】

奥出雲町においては、昨年末、全戸に光ファイバーを敷設した。F T T H網を完成し、住民サービスを始めたところである。高齢者がますますふえていく中で、官民が提供する公共サービスをI T化することで生活の質を高めていくことが今後ますます必要になっていくと指摘されている。

そのような中で、住民の活動も一つの市町村にとどまることなく、ますます広域化しているし、またI T産業の振興といった面も考え合わせると、市町村と市町村を結ぶ情報通信のインフラ整備が次なる県の課題の一つではないだろうかと考えている。このたびの発展計画において、そのような情報インフラの整備についてぜひ御検討をいただきたい。

【学校の統廃合】

少子高齢化という視点から、島根を取り巻く情勢の中で、学校の統廃合について言及されていない。この統廃合についてどのような考えなのか、聞かせていただきたい。

【家族構成】

家族構成がひとり世帯というのが一番多い。その次が2人で、1人が2人の世帯。それが今の社会活動にいろんな影響を及ぼしていると思う。家庭教育的なこと、あるいは家族の意識とか集落活動とか、そういうことに影響する。それから、経済活動、消費動向にも家族構成が随分変わってきたことが、今の社会の生活にいろんなことを及ぼしている。そういう現状をとらえられたかどうか、それはどう思われるか。

【高齢化】

65歳以上が老齡人口だという考えではなくて、70歳とか75歳以上が老年人口だという考え方を持てばいい。これから老年人口の方も役割を持つとか労働にも携わるとか、そういうことも必要ではないかということについて、何かコメントがあればお聞かせいただきたい。

【中山間地域】

中山間地域というものを全国的にもっと発展させないといけない。それは地球的あるいは自然環境的に見ても、中山間地域の役割というのは大きい。そこへ何をどうしたらいいかということ、国はやっぱり道路を整備しなければならないと思う。今、道路特定財源のことがいろいろ論じられているが、田舎の道は十分整備されてないから、暫定税率を維持して特定財源でやらねばならんというのと、いや、もう道路は十分できてる、むだに使わなくてもいいと、暫定税率は下げよというようなことがある。その辺についてどのように考えるか。

【高齢者、地産地消】

島根県の集落の実態というのは70代が一番中心で、60代はまだ若手のうちである。それらが頑張っているから、島根県で生産したものを島根県で消費していくということを拡大しながら、その島根県の産物をさらに地方から中央へ発信していくことができる。

島根県の立場としては集落の実態を見て、高齢者を大事にしながら地産地消をしっかり進めていただきたい。

【道州制】

先ほども道州制の問題が結構出ている。飯南町は、円をかくと出雲圏なのか石見圏なのか、例えば私は広島圏域なのかと。この真ん中の方で、逆に言ったら何を求めたらいいのか。

中山間地域はどこについたらどうなっていくのかというのが非常に不安を持っている。例えば、島根県でありながら県庁所在地の松江へ行くのに我々のところから、昔で言うならば国鉄、JRが走っていたが、今は自分の力で自家用車で行かないといけない。広島県を向いたら、今度は逆に広島県の方のバスが走っていて、道州制がいいのか悪いのかは別として、集約されたら広島圏域になるのかなというような気持ちもしている。こういう真ん中の方のこの、どちらでもというようなところが非常にこれから大変なところを迎えていると思っているので、ぜひこの辺もポイントにしてほしいと思う。

雲南圏でいえば、雲南市というふうになるかと思うが、飯南町はやっぱり外れてくる。地産地消とかいろんなことで頑張っているが、それがずっと永遠に続くのか難しいというような気もしているので、ぜひいい知恵と計画を出してほしいと思う。

【地域づくりの場づくり】

枠を超えて、生産者の方とか、町民、県民、行政、つなぐ場づくりをして欲しい。つなぐ場がこれから機能してくると思う。各ところの地域の場づくり、これがあれば一挙に進

むと思うので願います。

浜田会場での発言

【水産業の人材育成】

水産業の振興では、やはり人材教育が大事なのではないかという気がしている。若い人がシーカヤックとかヨットスクールとかやってやっているが、これをもっと体験学習としての基礎づくりをするための施設を県の遊休地を使ってやっていただきたい。若い人にそういう海辺に接する機会をつくるということは大事なことはないか。それを小・中学生から体験させるということになれば、やはりもっと海に関心を持ってもらえるだろう。

そういう意味からも、やはり子供たちにそういう体験の場をつくる意味で、例えばヨットハーバー、これは今、国土交通省も体験学習の場として指定をされているようだが、そういう施設を一つはつくってほしい。これが水産業を初め、海運、あるいはその他に関係する人材育成にもつながるのではないかという気がしている。

【燃料の供給基地】

今、バイオマスをいろいろ研究されているが、ここにもっと積極的に自治体も参加をして、燃えるものはすべて燃料化して、三隅港にそういう工場をつくって燃料供給をする。特に、プラスチックとかタイヤチップというのは高カロリーで非常に燃料には適している。だから木質とかその他のバイオマス関係も含めた燃料の供給基地をつくれば、県内の自治体の焼却炉は要らなくなるのではないか。県内で間に合わなければ県外からでも海を伝って持ってこれる。自治体のトラックで運ぶのを海上の各漁港からでも小さな船で運べば幾らでも調達できる。そういうことから振興策をもっと考えるべきではないかという気がしている。

【漁業、自給率のアップ】

今の漁業の環境は極めて厳しい状況にある。さらに、とる力も減退している状況にあり、魚が食べてもらえないという状況にある。

そうした中で、漁業を食糧の産業の位置づけとしていただき、将来を踏まえた中での自給率のアップを切にお願いしたい。

【国際化】

現在の島根では経済のグローバル化という情勢が顕著にあらわれてきている。その中でも、中国など東アジア、北東アジアとの関係が今日強固なものになってきている。島根県立大学も、学部生、院生ともに毎年留学生を招いており、現段階で何人もの留学生を社会に送り出している。これらを見ても、経済的な関係だけでなく人的交流でもグローバルに行われていると考えることができる。

島根総合発展計画の中には、島根県は地理的優位性から北東アジアとの貿易取引の拡大が発展の可能性を有しているというふうに記されてある。私も、島根県と北東アジア諸国との関係は年々強固なものになってきているというふうに感じる。このような国際化の波

が今後の島根県をさらに発展させていくであろうと私は考えている。そのためには、島根県という一つの行政区分からのみ考えるのではなく、島根周辺の地域を考慮し、その地域全体で協働し合い、諸外国との関係をより発展させていくよう支援していく必要があるのではないか。

【市民・行政の協働参画事業】

浜田にはタスキーという地域通貨があるが、学生や市民や行政などが連携して行っている事業がたくさんある。私自身、「HAMADIAN」という地域情報誌を発行している。このように、学生や市民が協働して行っている事業に行政の方から支援していただければ、島根県をより住みやすい、住みよいふるさとにしていくことができるのではないか。

【計画の概要】

発展計画の概要を拝見すると、素朴な意見として楽しいものが見えてこない。子供たちや若い人がわくわくするようなものが見えてこない。この島根に生まれて、島根に育って、島根を活性化しようという、そういったものを入れていただきたい。

【産業振興】

島根県はいいものがいっぱいあるが、地産地消ではなくて地産他消だと。やはり外貨を稼いでこそこの地域の活性化があるんだということを常々私は思っている。公務員こそが島根を営業していく、島根県のセールスマンというか、そういう概念を、市町村もそうだが、県にもぜひ持っていて、そのことが島根県の発展につながるのではないかと思う。

【協働】

今説明をいただいたこと、またパブリックコメントで拝見させていただいたことについては、ほとんどやって当たり前、やるべきことの羅列だと思う。なぜあえてこれが書いてあるかという、書かないとやらないから、できないからかなと思っている。仕事をするためには、ここに書いてあるから各セクションで県の方も仕事ができるということであれば、パブリックコメントの3ページに島根の将来像と、本日の資料では31ページにピラミッドがかいてあるが、その土台のところにも県とNPOなどとの協働ということが書いてある。パブリックコメントの中の26ページのところにも、県民、企業、NPOなどとの幅広い協働による総力の結集を図ることにより、島根の将来像の実現を目指すとする。

また、やっぱりパブリックコメント31ページのところの県民の総力を結集のところにも、企業、県民、NPOなどとの幅広い協働による県政を推進しますとあるが、本日の資料の41ページにも定住の部分で協働という文字は出ているが、島根総合発展計画の政策体系の中にも協働の文字が実はあらわれてない。

私は農業をやりながらNPO法人にかかわったり、グリーンツーリズムや中山間地の取り組み、農地・水・環境の取り組みなど、いろいろ取り組んでいるが、まさに協働を地で行っていると自負している。今後この計画の中に、例えば協働による「活力あるしまね」であるとか、協働に基づいて「安心して暮らせるしまね」をつくるかというふうなことで、その枝の中に協働によるものづくり、IT産業の振興とか、そういうふうな協働とい

うことが文字として事業の中であって、セクションも協働というコーディネートする部分があって、それで各事業を推進していくということがあらわされていれば、安心して我々もお願いできるし、県の方も仕事がしやすくなるんじゃないかなと思う。この協働の文字があらわれていないのが非常に気になっているので、よろしくお願ひしたい。

【協働】

協働という言葉は、この発展計画の中で見ると手段的な形で文章化されているが、恐らくこれは目標あるいは目的として立てていく必要があるんじゃないかなと思う。というのは、確かに10年後に「豊かな自然、文化、歴史の中で、県民が誰もが誇りと自信を持って、活力ある島根」を目指しているが、その一つ手前が恐らく協働が本当にできてなければこういうものがやっぱり出てこないんじゃないかなという気がしている。それゆえ、恐らく目的あるいは目標の中にこういう言葉が入っていくべきではないかと思う。

【活力あるしまね】

3つの基本目標の「活力あるしまね」という言葉だが、実は活力もそうだが、やっぱり魅力がないとどうしようもないんじゃないか。若い人たち、都会へ出て島根の魅力というものがなかなかしゃべれないという、その魅力ということをもうちょっと出す必要があるんじゃないかと思う。

【自然環境】

県西部だけでなく、東部もかなりの森林がある。これからこの環境の問題の中で恐らく、今世界で取りざたされているのはCO₂の取引の問題とか、恐らく国内でもこれからかなり出てくるんじゃないかなと思う。そうすると、この自然資源というのは、ただ環境として考えるんじゃなくて、経済的な戦略としても使える部分があるだろうと思う。当然それは島根の人たちが誇れるものになる可能性が多分にあるとすると、これらの自然資源管理をどのような形で基本的に計画を持っていくのかということを中心に、恐らくこれはゾーニングの絡みもあると思うが、景観とか保全、保護、それから利用、クマの問題とかそういうものたくさん入っている。そういう計画を早急に立てていく必要があるんじゃないかと考えている。

【数値目標】

計画というものがあるが、ここに数値が全然入っていない。これはちょっとおかしいんじゃないかと思う。がん対策の計画をごらんいただいたら数値がどれだけ入っているか、比べてみてほしい。

【企業誘致】

大阪で島根県の企業誘致をしたときのトークが、やはり価値観の違いから、こちらの価値観で相手に説得しても、なかなか大阪の人はこちらの価値観を理解していただけてない。だから、せっかくしゃべっても全然通じてない。通じてない話をしているので、全く誘致にのってきていただけないと、そんな現状は実際かいま見ている。

【医療】

医療教育、医療従事者の不足ということからいうと、平素見られない病院の中の部屋を見せてもらえない。例えばオペ室の見学とか、そういうような平素見られないところを見学することによって何か興味がわいてくる人たちもいるだろうし、学生の皆さんがそこから医療に向かって挑戦をしていこうという、そんな気持ちも出てくるんじゃないかと思う。

【観光】

新年度からNHKで大河ドラマが始まっているが、あの脚本を書いているのは益田市出身の田淵さん。田淵さんに言ってロケーションを島根でやってもらうということをやれば、島根のPRになるんじゃないかと思う。やはり外の力をどう使うかという、そういう力がないような気がする。

【JA、漁協】

JAと漁協は何で別なんだろうといつも思う。一緒にしてもいいんじゃないかと思っている。

【地球温暖化】

温暖化という問題を、一個人のやることというのは微々たるもので、地球全体で抱えている問題をこの一個人でやるということから始めるので、なかなか姿がとらえづらい。これは個人個人の生活スタイル、ライフスタイルの問題である。その個人はその家庭に属しており、その家庭はその地域に属している。そういう考え方から、島根県のCO₂の削減を地域の問題ととらえて、その地域地域のエネルギーのビジョンとして島根県が指導なり後押しして、地域の削減量をまずとらえてみんなで努力していく、そういうふうな方向を立てていただきたい。

【中山間地域】

島根県全体を活性化するということには、85%以上の中山間地を持っておると。中山間地の集落というのは今できている、立派にやれている集落も、5年、10年の間このままの放置になると、恐らくこの限界集落になるだろうと予想される。そうしたことで、最後のページで、今から別なところでいろいろ計画も立てたり発展的なことを考えるということであるが、このことについてもぜひしっかりとお考えいただきたい。

中山間地の限界集落であるとか活性化ということになると、山林、里山というのをどういうふうに活用していくんだということを本気で考えていく必要があると思う。これは県の財政的な問題、国の状況もそうだが、やはり山とともにある農業、農林業というものを育てていかないと、なかなかうまく回っていかないのではないかと思うので、そこの辺をよろしくお願いしたい。

【漁業の担い手】

先ほどの資料によると、石見地域は地元に着していく高校生が少ないということだが、本校の実態は、就職するのが80%、そのうちの71%が地元に残る。もしも地元の受け皿があれば、もう少したくさんの生徒が残るんじゃないかという気がする。

島根県は沿岸線の大変長い県、そして浜田は水産業を基幹産業とするところ。どんどん

子供は減ってくる。減ってくればどんどん統合しようということで、46の水産高校がどんどん減ってきて、日本の守りもできなくなる。食糧の生産もできなくなる。何でもかんでも通っていかないと水産業は成り立たないという視点も必要と思う。

それから魅力について。本校の生徒は石見神楽が大変好きである。そういう子供の中で、去年卒業した子供で広島へ就職したが、何か祭りがあると帰ってくる。そういうふうに、島根県を少しエリアを広げたりしながら、連携を保ちながら今後いくということ。

水産高校も一生懸命頑張っている。やっぱり小さいときからいろんな海とのかかわり合いを持たせながら生徒・子供を育てるという視点に立ってこのエリアは考えていってほしいという気持ちがあるので、願います。

【高津川】

高津川にたくさんの人が触れ合う、そしてなおかつ水産資源もとれるということ、ぜひとも魅力として私は日本に訴えたいというふうに思っている。高津川水系の中の匹見川の中で、子供たちを実際に川の中につけて泳がして、そして楽しませている。そういう触れ合いができる河川というものをぜひアピールするべきだろうと思っている。そして、そういうことを安全に行うためには、地域にそうしたリーダーを養成していく必要があると思う。そういうきれいなところは過疎地域であり、過疎を逆手にとるようにして人に集まってもらうような地域づくりができれば、過疎問題の解消の一つにでもなるんじゃないかと思う。

県の方でも道路整備を一生懸命やっていただいているが、こういった川のよさもあわせて生かしながら地域の基盤づくりをするということが最も適切なことだと思う。この川の名譽を失わないためにも、きれいな川を守る、そういう意味でぜひ計画の中に盛り上げていただければと思う。

【島根の名前を売る】

共通の県民挙げて何か考えられることはないだろうかということ考えたときに、島根という名前を売ろうというような、何か共通的な目標というものを掲げることはできないか。

県民挙げて、どういう立場にあっても我々は島根という名前を常に売っていくんだということを何か意識づけるといったようなことをこの計画の中に入れて、金をかけないでやるというようなことをつけ加えて、何か意識づけができないかという気がしている。我々の意識でみんなが元気の出るような、あるいは魅力のある、島根に生まれてよかった、この先島根で暮らしたい、ということを考えるには、島根という名前を何とか皆さんに植え付けたいという気がしている。例えば「心豊かなしまね」という項目の中のどこかに、金をかけずにみんなで行おうじゃないかというような運動づくりをしてみたらどうだろうかと思っている。

【萩・石見空港】

益田には萩・石見空港があり、搭乗率も非常に低迷している。そこで経済活性化と、地

域の、それと空港の活性化も含めて、航空学校の誘致をぜひとも県の方でも取り上げていただきたい。仮に航空学校を誘致すると、食事の提供によりこの圏域の農林水産業、特に第1次産業がある程度活性化してくるんじゃないだろうか。石見空港が2便であるがゆえに、逆手にとった考え方から、航空学校の誘致を考えたらどうだろうかという提案をしたい。ぜひともこれは県の総合計画で打ち込んでいただきたい。

隠岐会場での発言

【外貨を稼ぐ】

私ども島根の中に住む一人一人が経済のグローバル化の中に既に組み込まれているというのが現状である。外貨を稼ぐ、本土から物を稼ぐのもそうだが、先ほどの環日本海の対岸の外国からも物を売って稼ぐような取り組みが隠岐島でも求められていると思う。

私はシイタケをつくって売っている。その中で、県当局の方々のお力添えで商売させていただいているところがある。県庁のブランド推進室の方々が、関西の高級スーパーにアポをとって同行いただいた。

バイヤー担当の助役さんがこういう話をされた。自分のところには全国からいろんな方が来るが、その中で島根県は当たり外れが少ない、品物が余りぶれてなくて、自分の思っている範囲に近いものが来ると。島根県のそういう仕組みそのものが自分たちにとっては大変ありがたい話だと。

このことが、我々のような島に住んでいる者あるいは中山間地で小規模な物づくりをしておる者にとっては、大変勇気のある御指導あるいは支援であるので、このことをもう少し各地域で具体的な事例の中で接触をしていただきながら今後も御支援をいただければ、この島の中だけで消費対象の生産者が、ひょっとして化ける可能性があるのかなという気もしているので、今後ともその辺のところの御支援をいただきたい。

【水産業】

実施計画において、ぜひ水産業の面から取り入れてほしい。

水産業の現状は、資源減少、価格の低迷とか、さらには就業者が非常に高齢化し、若者がずんずん少なくなっている。そういう面から収支の上では非常に厳しい状況にある。

私たちの系統漁業団体は、10年前から担い手の確保、後継者の育成を、これこそ水産業の発展の非常に大事な喫緊の課題だということで取り上げてきているが、なかなか成果を上げないという現状にある。特に、一本釣り漁業が非常に高齢化し、どんどん組合の売り上げの方が少なくなってくる。若い者はなかなか一本釣りには入ってこないというようなことがあり、何とかこれを改善していく、解決していくためには、要は水産業に携わっている者が、我々組合員の所得がどんどん向上していけば、これは入ってくるんだと。

そこで、その所得向上のためにはどうすればいいかということを考えてみると、企業の共同化をこれから進めていかなければならないのではないかと。若い者が10人ぐらいでどんどん共同で企業経営をやっていく。そのためには規制を緩和する。特に許可漁業の規

制を緩和して、若者に共同でそういうぐあいにやっていく。そういう規制を緩和して、どんどん若者が共同で事業をしていくようにしていただきたい、このことを盛り込んでいただきたい。

いま一つは、燃料問題で国の方も100何億の省エネ対策を出したが、やっぱりこの問題は今後も続くと思うので、省エネ対策としてどのようなことをやるかということを考えていただきたい。私は今の事業の共同化等もその一つになるであろうと、そこにまた盛り込んでいくことが必要と思うが、ぜひこのようなことを考えて、中間計画(実施計画)に取り入れるようなことをお願いしたい。

【林業】

産業として林業が成り立つには、山で切る木ばかりでなく、あいた空間を利用して何かをつくるということをやれば、何とかやれるんじゃないかという見通しをしている。NPOの方でも、切った後に何を植えればいいのか、あるいはどういう事業を持ってきて、隠岐全体を里山として、観光にも文化、健康あるいは産業振興にも使えないものだろうかということで、動き始めている。ぜひとも隠岐固有のいろんな産物があるので、それをどのように林間でつくっていくか、あるいは全伐した木を切った後、引き続き何かをつくっていく、植えていく、いわゆる持続可能な林業にしていかなければならないと思っている。隠岐の山林は松くい虫と杉の間伐がおくれたことによって非常に荒れている。これらの材を使いながら、あるいは本土に移出できない小径木の木は何かバイオマスの方で使ってもらえば、これは非常にいいことだと思っている。

それと同時に、NPOの方でも里山再生のために皆さんに協力を願って、やっぱりみんなが自分の隠岐だと、将来住んでいく隠岐だということで協力できるような体制をとれたらと思っているので、引き続き隠岐支庁並びに県の御支援をお願いしたい。

【施設の有効利用】

何かしようとしたときに箱物が要るが、もう箱物もつくる時代ではない。余り有効利用されてない箱物が遊んでいることが非常に多いと思う。今後、学校等、保育所等もあいてくるかもしれない。ある目的でつくったものを、年に1回か2回しか使わないがほかの人には貸せないという制度は、非常に不合理だと私は思っている。ぜひその辺の整備なり、もっと使い便利のいいものはないかということをお願いしたい。

【観光】

離島で人口をふやすとか、産業を振興するということは、本土と違っていろんな面でハンディがあって難しい面がたくさんある。そこで、従来から隠岐の場合には交流人口をふやして、その人口をふやすことによって産業の振興もトータル的にふやしていくのが適切ではないかということいろいろと各町村もやってきた。

今後隠岐の観光客をふやすためには、どうしても高速船の問題、それからフェリーの高速化といった、交通の体系の整備が必要だと思う。飛行機については、幸いにして2,000メートルの滑走路を県の御支援でおつくりいただいた。

ただ、船の場合は、今、国でも問題になっている暫定予算のガソリン税の問題等がある。この計画をみると、本土では石見とかいろいろなところには高速道路をつけるとか、道路を整備すると言っておられる以上は、道路を1本つけることになれば、土地の買収から家の立ち退きで50億も100億もかかるような状況じゃないかと思うが、船の場合は1艘つくれば高速船でも大体20億、フェリーでも30億ぐらいで、それで15年も30年も使えるわけなので、隠岐と本土の間を少なくとも県道ぐらいに認定いただいて、ぜひ隠岐汽船の方にも補助をいただくとか、そこらで整備をしていただければ、観光客もどんどんふえてくるんじゃないかと思うので、ぜひお願いをしたい。

【環境保全】

私は隠岐島の環境、中でもコウノトリに興味を持っている。コウノトリが繁殖したり人間が健康であるということは、環境の保全の象徴としてコウノトリがここにいるということ。だから、これを県の事業として、ぜひコウノトリの繁殖、育成に力をかしていただきたいと思う。

前回のラムサール条約に宍道湖と中海が指定されたが、あのときには隠岐のオの字も出なかった。ことしの11月に韓国でラムサール条約の会議があるということで、隠岐島をぜひラムサール条約に登録していただくように県の方で活動してもらいたいと思う。

【島根の現状】

今回、こういう広聴会を開いていただき、島根の現状と課題及び今後の目標と計画についていろいろ詳しい話を伺った。逆に言うと、学校にいるときにこういう情報がなかなか入ってこないという現状がある。今後具体的な数字を盛り込んで計画をしていくという場があると思うが、そういった中で学校、高校、中学も含めて、そういう計画の内容を生徒に情報の提供という面でしっかりしていただけたらと思う。